

試験番号：IIJ-10-0063

受付日：平成23年 1月25日

報告日：平成23年 4月25日

木造接合部の強度試験
[羽子板パイプ/DH トリプルロック羽子板
/引張試験]
報 告 書

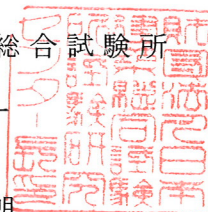
試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長

工学博士 井上 一朗



技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	木造接合部の強度試験 [羽子板パイプ/DH トリプルロック羽子板/引張試験]	
依頼者 (所在地)	株式会社 ダイドーハント (大阪府大阪市中央区西心斎橋 1 丁目 5 番 5 号)	
試験実施日	平成 23 年 2 月 23 日	
試験体	形状・寸法	図-1.1
	接合金物	商品名：DH トリプルロック羽子板 【材質：SPHC (JIS G 3131), 形状・寸法：図-1.2】
	接合具	柱側 六角ボルト、六角ナット：M12×L140mm (1 本、接合金物と柱を接合)【Z マーク表示金物】 角座金：40×40×t4.5mm (1 枚、六角ボルトと柱を接合)【Z マーク表示金物】
		横架材側 六角ボルト、六角ナット：M12×L180mm (1 本、接合金物と横架材を接合)【Z マーク表示金物】 角座金：40×40×t4.5mm (1 枚、六角ボルトと横架材を接合)【Z マーク表示金物】
	柱・横架材	木材の樹種等：すぎ製材【無等級材 [栃木県産]】
	試験体数	7 体 (うち 1 体は予備試験)
	備考	1. 試験体構成部材の諸元を表-1 に示す。 2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠基準	「木造軸組工法住宅の許容応力度設計 (2008 年版)、第 6 章 試験方法と評価方法、pp.561~592」((財) 日本住宅・木造技術センター) に準じて行った。
	試験装置	図-2
	荷重方法	予備試験は単調荷重、本試験は一方向の繰返し荷重とした。 繰返し荷重は、予備荷重試験で得られた降伏変位 δ_y の 1/2,1,2,4,6,8,12,16 倍の順で各 1 回行うこととした。
	試験体の設置方法	試験体の横架材両端部を 800mm の間隔でスペーサー (PL-50) を介してボルト (M16) を用いて固定した。なお、接合金物の横架材への締め付けは手締め程度とした。
測定機器	荷重値の検出には、50kN ロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2 に示す位置に設置した変位計を用いた。	
試験結果	<ul style="list-style-type: none"> ・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・P-δ 曲線の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録 1] に示す。	
	短期基準耐力 (P₀) : 10.9kN 短期基準耐力の算定方法を [付録 2] に示す。	
構造部 構造要素試験室 試験責任者 今西 達也 試験担当者 友清 繁		